第二部

連句実作会

午後からは、場所を桃園集会所に移し、連句の実作会が行われました。参加者は二つのグループに分かれ、和気藹々とそれぞれの作品作りに挑んでいました。

宗祇追善俳諧連歌「宗祇会」の巻

捌　小林　静司

葉桜の守る大寺宗祇会　小林　静司
献茶捧げる淡き夏帯　大地　実木
朗々と吟じる翁の声長けて　土屋　日菜
窓の外にはせまる海原　水野　森雄
ウ寒月にそっと近づく赤い星　佐野　仙由
自家製味噌を作る隣人　静司
そよ風に記者が佇む丘の上　実木
追われてふたり時差で行動　日菜
空港で君の笑顔にまた逢える　森雄
キーウの街へいつ帰れるか　仙由
ナオ元気なき種豚尻をたたかれて　静司
ボルドーワイン贈られた夜　実木
落とし水月はいずこに宿りたし　日菜
旧街道に並ぶ干し柿　森雄
冬近し俳句ポストに投稿す　仙由
じわじわ下がる円安に泣く　静司
ナウごひいきに差し入れをする楽屋口　実木
夢継ぐ郷に出ずる初虹　日菜
花だよりも香りものせて私にも　森雄
富士仰ぎ見る囀りの中　仙由

首尾　令和五年六月二十五日　於　桃園集会所

半歌仙「半夏生」の巻

捌　勝又　丘女

宗祇塚白燦々と半夏生　勝又　丘女
忘れ蛍の止まる岩陰　河井　愛
眠れずに酒の力で夢を見て　水口　英男
腓返しはマラソンのせい　鴻巣　洋子
月の道目指すロマンは古代水　愛
スペースシャトル潜む蓑虫　菊池　真生
ウ賑やかに雀群がる秋の田に　洋子
あなたに触れる勇気下さい　英男
スマホ越しいつもの声が聴きたくて　真生
Aーに問う今日の献立　愛
三男坊腕白盛り膝に傷　丘女
ペルシャ絨毯駆け回る犬　洋子
凍て月に響くコーラン闇に溶け　真生
懐手して向かう集会　愛
富士山の麓育ちのありがたき　英男
こころ高鳴る雪解けの頃　真生
さらさらと水面に揺れる枝垂れ花　洋子
明日へ向かいて跳ねる若鮎　英男

首尾　令和五年六月二十五日　於　桃園集会所